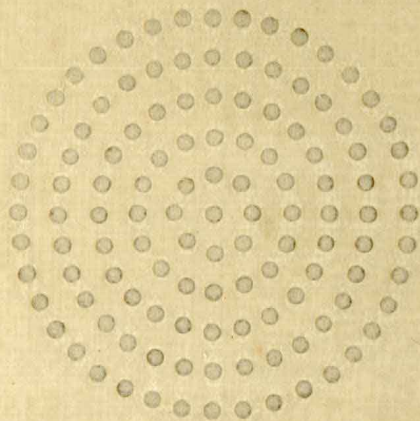
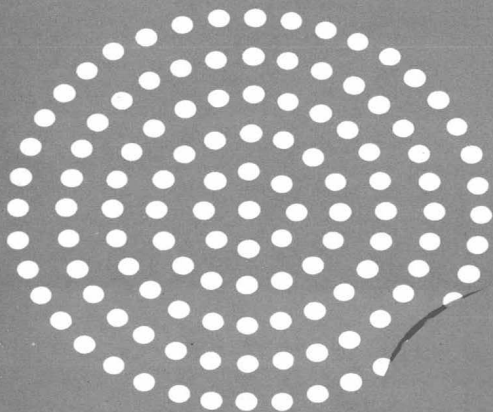




世界の詩集 1

ゲーテ詩集



手塚 富雄訳

訳者 手塚富雄

1903年栃木県に生まれ、1940年東京大学文学部独文科卒業。現在東京大学名誉教授・立教大学教授。

主要著訳書「ゲオルグとリルケの研究」
「一青年の思想の歩み」 小説集「帰るゆく人」
「ゲーテ詩集」(角川文庫) シャミッソ
「影を売った男」(角川文庫) ヘッセ「荒野の狼」
「シッダルタ」(角川文庫) など



世界の詩集

1 ゲーテ詩集

印刷カラー 暁美術印刷株式会社

本文 旭印刷株式会社

函・扉 暁美術印刷株式会社

製函 川合紙器加工所

製本 株式会社鈴木製本所

訳者 手塚 富雄

発行者 角川 源義

発行所 角川書店

東京都千代田区富士見二ノ十三
●東京一九五二〇八(●)〇二
電話東京(六五) 七三二(大代表)

昭和四十二年四月十日 初版発行
昭和四十九年五月三十日 十一版発行

落丁・乱丁本はお取替えいたします

0398-590301-0946(2)

目次



ひとりひとり

ミニヨン（あこがれを）
 ミニヨン（明かせと）
 ミニヨン（このよそおいを）
 ミニヨン（知りますや）
 堅琴ひき（戸毎戸毎に）
 堅琴ひき（涙ながらに）
 堅琴ひき（さびしさに）
 糸車にむかうグレートヒェン
 聖母の像に祈るグレートヒェン

小曲

好意ある読者たちに
 新しいアマデイス
 狐が死ねば皮が残る
 野ばら
 めくら鬼
 クリステル
 つれない少女
 つれなさの失せた少女
 救い
 みつけた花
 しっくり似合いの

七 八 九 一 二 三 四 五 六 七 八 九 一 二 三 四 五 六 七 八 九

舞踏に誘う競い歌
 千変万化の求愛者
 金細工師の徒弟
 問答あそびの答え
 おなじ場所でのさまざまな感情
 誰が買う 愛の神々
 わかれ
 美しい夜
 遠ざかりいる幸福
 そら死に
 わが選びしひとに
 失われた初恋
 すべてが
 遠くに去った恋人に
 川のほとりにて
 よろこび
 別離
 変転
 省察
 勇氣
 いましめ
 逢いとわかれ
 新しい愛 新しい生
 ベリンデに

一 二 三 四 五 六 七 八 九 一 二 三 四 五 六 七 八 九 一 二 三 四 五 六 七 八 九

五月の歌（なんと晴れやかな）	五	空なり 空の空なり	一三
花を描いたリボンに添えて	五	物語詩	一五
金の頸飾りに添えて	七	すみれ	一六
湖上にて	九	不実な若者	一六
山上から	一〇	漁師	一四
花のあいさつ	一〇	トゥーレの王	一四
五月の歌（麦畑みちか）	一〇	宝掘り	一四
やすみなぎ恋	一〇	裁きの庭で	一四
ミニヨンに寄せてある少女のうたえる	一六	小姓と水車屋の娘	一五
哀愁のよろこび	一六	追いかける鐘	一五
旅人の夜の歌	一六	骸骨踊り	一五
おなじく	二〇	魔法使いの弟子	一五
月に	二二	ヨハンナ・ゼーブス	一五
制約	二四	さざさまの詩	一六
希望	二五	マホメットの歌	一七
憂い	二六	水の上の雲の歌	一七
わが所有	二七	プロメーティス	一六
リーナに	二八	ガニユメート	一八
つといの歌	二九	神性	一八
春の占い	三〇	人間の感情	一八
幸福な夫婦	三三	甘美なる愛い	一八
コフタの歌	三三	蚤のうた	一八
おなじく	三三		

フィリーネ
少女は語る

『西東詩集』より

ズライカがユスフに
あなたがズライカと
ハーテムより
ズライカより
銀杏の葉
あなたはたくさんの
日はのぼる！
わたしが望むものは
わたしがためらいでも
うつくしく書かれ
愛をかさね
民も奴隷も支配者も
貴金屬商の

解説

ゲーテ・人と作品
鑑賞
年譜

エビグラム風に

会合

立論駁論

謙遜

何よりのこと

肥っても痩せても

処生訓

自信

歲月

老い

好範例

あべこべなら

「平等」

不老の靈藥

メフィストフェレスいわく

ひとつの譬喩

三五

三六

三七

三八

三九

四〇

四一

四二

四三

四四

四五

四六

四七

四八

四九

五〇

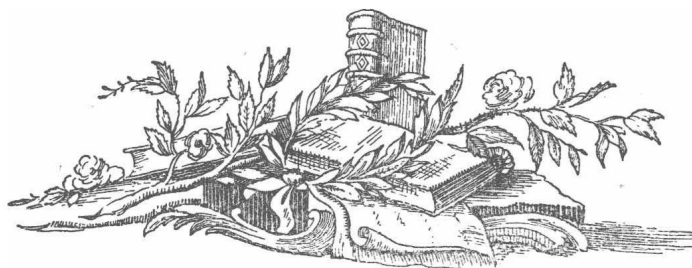
二四

二五

二六

二七

ゲーテ詩集



ひとりひとり



ミニヨン

あこがれを知る人だけが 知ってくれます
わたしの胸の悲しみを。

ただひとり 世の幸のすべてに

離れ

わたしは見やる

かなたの空を。

ああ わたしを愛で わたしを知ってくださいる方は
遠いあちらにおいでです。

目はまどい 胸は
裂けます。

あこがれを知る人だけが 知ってくれます
わたしの胸の悲しさを。

ミニヨン

明かせといってくださいますな、

言わぬをおゆるしくださいます。

わたしの秘密はわたしの義務でございます。

この胸にあることを残らずお話ししようございます。

けれど運命がそれを許してはくれませぬ。

時がくれば日のあゆみは

闇夜を逐い、夜は明けずにおりません。

堅い岩もついには胸を開きます、

そして深くかくれた泉をひとびとに惜しみはいたしません。

たれしも友の腕にいだかれて思うさま泣きとうございます、

苦しみを訴えれば胸をかろくすることもできましよう。

けれどわたしは一つの誓いのために

口を鎖くさされているのでございます、

それをひらくことのできるのは神さまだけです。



ミニヨン

このよそおいをおゆるしくださいますし
この真白い着物を脱がせてくださいますな
わたしがほんとうにそのようになるまでは。
わたしはもうすぐこの美しい世に別れ
揺るがぬ小家へいそぎます。

そこではばらくやすんだら
眼はさわやかに開きます。
そのときわたしはこの着物も
帯や花輪も脱ぎすてます。

すると天使に迎えられるわたしには
もう男、女の区別はなく
浄められたからだには
帯も着物もいりませぬ。

わたしは苦勞もなく生きてまいりました。

けれど深い悲しみは知りすぎるほど知りました。

なやみのため　こんなに老^よけてしまったわたくしに

どうか永遠の若さをおあたえくださいまし。

ミニヨン

知りますや その国、檸檬は花さき

暗き葉蔭に柑子は熟れ

真青き空より風通いて、

ミルテは静かに 桂は高く聳ゆ、

そを知りますや

あなたへ あなたへ

いとしき人よ 君と共にゆかまし。

知りますや かの館、柱は並みて

屋根高く、広間居間かがやきわたり

きびしき大理石像はわれをうち見て、あわれの子よ

ひとやなれに辛きと 言問うごとし、

そを知りますや

あなたへ あなたへ

頼める人よ 君と共にゆかまし。

知りますや かの嶺 雲の棧道、
騾馬は霧に歩みゆるく
洞窟には竜の古きうから棲み
切り峙つ巖に滝つせかかる、
そを知りますや

かなたへ かなたへ
父なる人よ 君と共にゆかまし。